

## 給食サービスのQOLにおよぼす効果

○三成由美\*、徳井教孝\*\*、楠喜久枝\*、森近修子\*、反田葉子\*

(\*中村学園大、\*\*産業医科大)

【目的】急激な高齢社会の到来を迎え、ゴールドプランが策定されて現在実施中である。福岡市において、平成5年12月より、高齢者の食生活を支える生活支援型給食サービスが地域ボランティアの協力を得て週2回、モデル地区において実施されている。本研究は、給食の配食サービスシステムと高齢者における食事の期待度についての実態を明らかにし、高齢者のQOL向上のための基礎資料を得るために検討した。

【方法】1.第1回調査(ベースライン調査) 2.第2回調査 対象者：第1回調査に回答した高齢者74名。調査時期：平成6年11月～平成7年5月(給食配食サービスを開始後1ヵ月)。調査方法：健康と食生活に関する調査票を作成し、聞き取りは民生委員にお願いした。調査内容：対象者の基本的属性、健康状態、日常生活満足度(主観的QOLについて)食事作りの現状、福祉サービスへの要望、その他。

【結果および考察】回収率は第1回調査が74%で平均年齢±標準偏差は78.6±7.1歳で、第2回調査が65%で平均年齢は79.0±7.5歳であった。日常生活満足度についてLowtonによる改定PGCモラル・スケールを用いて解析すると、給食の配食サービスは受ける前後で、食事におけるQOLの向上に有意な差は認められず、生活のなかにおける給食サービスへの期待度が低いことを示唆された。また、第2回目の調査用紙を配布する時、すでに配食サービスを辞退していた人が35%占めていた。それらの理由の1つは、嗜好、価格、その他で高齢者のニーズに対応していなかったのではないかと考えられる。本調査で、高齢者の健康状態、食事や歩行に関する結果より、食事の自立を支援することの必要性が感じられたので、それを支援するヘルシーメニュー集の作成を試みた。